

## 「第3回新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョン懇談会」会議概要

- 1 日 時：平成29年1月30日（月）午前10時～正午まで
- 2 会 場：新発田駅前複合施設「イクネスしばた」1階 多目的室1
- 3 出席者：桑原会長、高澤副会長、森委員、相馬委員、加藤委員、平川委員、鈴木委員、  
田中（正）委員、水戸部委員、田中（厚）委員  
【事務局】新発田市みらい創造課：佐藤課長、野崎課長補佐、高山係長、山田主任  
胎内市総合政策課：井畑課長、錦織係長  
聖籠町総務課：高松課長補佐、久保主事

### 4 会議概要 ※次第に沿って進行 司会進行：事務局

#### ○開会

※事務局から説明（委員紹介、資料確認及び説明）

#### ○議事

#### 「1 定住自立圏形成に係る連携事業について」

【会長】前回の続きであるが、3つの政策分野について補足的な提案や意見を確認したい。その後、今後の取組も含め、全体を補完する助言、提言をお願いしたい。

※「I生活機能の強化」の補足意見確認

#### < I生活機能の強化 >

【委員】「子育て環境の充実」について、赤ちゃん対象なのか。赤ちゃんだけに拘らず、ケアルーム（お世話をする部屋）として、障がいを持った方や高齢者など、目的のある人たちが利用できるようにになれば人の気配があり安心につながる。

【委員】子育て環境の充実なので、障がい者や高齢者に対象を広げることで「住みよいまち」として定住につながる重要な視点になる。

【委員】子育て世代には発達障がいの子をもつ親もいるが、子どもの興奮を落ち着かせる場所としても利用できないか。子育てとして必要である。

【委員】将来的に対象を、どの程度広げられるか。

【事務局】障がい者や高齢者を入れてしまうと、現在の目的が変わってくるため、子どもを取り巻く環境として考慮できると思われる。担当課にお伝えする。

#### < II結びつきやネットワークの強化 >

【会長】次に、「結びつきやネットワークの強化」では、地域公共交通、交通インフラ整備、住民との交流促進、スポーツ振興の推進、交流定住の取組がある。

※「II結びつきやネットワークの強化」の補足意見確認

【委員】「スポーツ振興」では中学生の部活等のイメージがあるが、小学生の運動不足と肥満傾向が高く、また、バス送迎の地域も同様である。また、昨年夏に日本体育大学の集団行動が合宿に来た際に、中学生が指導を受けたが、子どもたちが大きく変わったと聞いている。走るのが苦手な子や器具の運動が苦手な子どももいる。低学年向けに開催してもよいと思う。

【事務局】定住自立圏でもスポーツ関係の取組を行うが、新発田市はスポーツツーリズムを推進し、胎内市ではスポーツの歴史があり、聖籠町もサッカーが盛んである。担当課では、まずは事業を

進め、更に拡充していきたいと考えている。お金を掛けず、できるところから広げていく。

【委員】各種スポーツ大会等の開催は、どのような種目等を想定しているか。

【事務局】詳細については今後、担当課で検討を進めていく。

【委員】定住自立圏共生ビジョン主催の大会となるのか。

【事務局】イメージは主催に近いと思うが、各市町が所有の施設で実施するということである。

【委員】様々な分野のスポーツを実施してもらいたい。聖籠町と新発田市は小学生6年生の陸上で交流を行っている。知っている限り、これまで胎内市と聖籠町、新発田市と胎内市も実施したことがないため、3市町合同で実施することは難しいと思うが実施してほしい。保護者も喜ぶし、子どもたちも外に出て活動が行える。

【委員】健全者のイメージが強い。障がい者スポーツも考えていかなければならない。

【委員】定住自立圏で障がい者に取り組んでいることが、この圏域では多様な人を受け入れ、安心して幸せに生活することができるイメージを外に打ち出すことができる。今、住んでいる人だけではなく、外から来る人や一度圏域から離れた人に、この圏域は子育て世代や障がい者、高齢者に親切であるというイメージが伝われば、この地域に戻りたいというキッカケになる。住民のために様々なことを考えてくれる地域に魅力を感じるはずである。スポーツでも、障がい者が活躍できる環境が大切であり、のちにオリンピックに出場する優れた選手が誕生するなど、底辺を大切にすることが重要である。

定住自立圏は相互を理解する場であり、各種スポーツ大会の合同開催は、メインとなる大会をしっかり考え、他の圏域からも参加してもらうこと、また、外からも見てもらう、この2つの視点からスポーツ振興を図っていくことも必要である。

【委員】「公共交通」について、胎内市から新発田市へ行く機会が多い。胎内市ではデマンド交通を行っているが、新発田市まで乗り入れできれば、高齢者等の通院には便利である。実現には金銭等の問題もあるが、これらを踏まえた広域連携として捉えていいのか。

【事務局】「公共交通」では、圏域内をスムーズに移動できることが望ましい。現在、デマンド、コミュニティーバスが混在しており、運行事業者の合意形成、利用料金などといった内容を詰めていくことによって、相互乗り入れが可能となると考えている。

【委員】外国では連絡すれば迎えに来てくれるシステムがある。通院など、拠点病院に安心して移動できることは必要である。

【事務局】「公共交通」は定住自立圏の重要な柱である。今後、胎内市、聖籠町の公共交通の連携を図るために、課題を解決しながら進めていくので、少し時間が必要である。

【委員】「婚活」について、地域でも晩婚、未婚が多い。市でも婚活を実施しているが、結果として、成婚された人が少ないと聞いている。成婚率を上げるために、委託はどうか。

【事務局】現在、婚活イベントは参加状況も良く、いつも定員を上回っている。しかし、成婚は少ないため、その点のフォローも業者をお願いしている。今後、圏域で取り組んでいくが、イベントだけでなく、結婚についてどのような環境を望んでいるかなど、事業を進めながら検討していきたい。県でも登録制の結婚相談所を開設するため、県とも協力して進める予定である。

【委員】婚活が行政の仕事なのか。個人が考えることであり、出会いの場はやりすぎである。

【委員】プライベートな部分もあるが、行政がどこまで手を差し伸べるのか、結婚は個人的なことである。地域が狭いと出会いも狭くなるため、出会いの場を広げイベント等を実施して若者が顔を合わせる場は必要である。外に出て賑わうイベントを提供することは重要であるが、出会い以外の目的として、行政が若者の力や意見を集めるために、イベント時のボランティアなど呼びかけ、地元への関わりに結びつけるなどの取組も可能である。まずは若い人がなぜ結婚しなくな

ったのか、その原因を検証する必要がある。親が幸せな夫婦関係や家庭を築いていれば結婚が当然だと思えるようになるが、今は家庭の形態が変化し、若い人が結婚しにくい。昔は夫一人でも家族全体を賄っていたが今は異なるため、圏域内でも雇用が生まれ、結婚し子供も産める経済的なベースが保障できるようになれば結婚に結びつくと思う。幸せな結婚観や家庭観の勉強をしてもらいたい。

### <Ⅲ圏域マネジメント能力の強化>

【会長】※「Ⅲ圏域マネジメント能力の強化」の補足意見確認

【委員】「男女共同参画」が、何故、「圏域マネジメント能力」の分野に区分されるか教えてほしい。

【事務局】男女共同参画は女性の活躍を引き出すといったことも含まれており、これまで見落とされてきた視点や考え方を取り入れることによって「圏域マネジメント能力」を高めるということである。懇談会の前段で、障がい者や高齢者の話をしたが、場合によってはこの部分の視点も入るのかもしれない。

### <全体意見>

【会長】※今後、定住自立圏を推進する上で、圏域が抱える人口問題等があるが、この問題を乗り越えていくために必要な取組や事業、圏域を活発にするための意見確認

【委員】「農業振興」について、東京に「新潟館ネスパス」があるが、東京やスーパー等に圏域を扱う店を出すことはできないか。

【委員】以前スーパー等に売り込みにいった経緯があるが、生産量もあるため催事販売が現状である。農業では高齢化により量が増やせない状況である。

【委員】宣伝ルートなど、行政がサポートしていくことが重要である。生産量はテコ入れが必要であり、また、売上が上がれば雇用につながる。どのような場面で行政サポートを必要とするかを考えなければならない。地域ブランド品など、売れる見込みがある物は自治体の後押しによって軌道に乗れば、やりたい人も増えてくる。

【委員】新発田市、聖籠町でも同じものを作っているが、共同でPRは行っていない。

【委員】圏域が経済的に潤っていけるのであれば、やる価値はある。

【委員】次年度以降、定住自立圏の推進体制はどのようなものか。

【事務局】今年度は各市町の担当課が全体の進捗管理や事業担当課との調整を行い、首長会議で内容確認を行いながら定住自立圏を構築してきた。次年度も同様の体制で進めていく予定である。

【委員】子育て応援カード事業について、協賛店に星印などの評価を付けてみてはどうか。目印にもなり子育て以外でも利用が増える。

【事務局】誰にでも分かるようにPRしていきたい。先の次年度の推進体制であるが、事業はすぐにできる事業と検討を要する事業がある。担当部署とスケジュールの確認をしながら進めていきたい。次年度以降の懇談会で、事業の実施状況の確認と検証をお願いしたい。

【委員】「医療」の分野がない。この圏域では困っていないのか。また、医療自体は困っているが、将来的にはどうなのか。

【事務局】困っている。新潟県全体でも医療機関数、医師数など安心はできない。今後、かかりつけ医師やメディカルパスについて協議を進めていきたいと思っている。これまでも検討した経緯があるが、新たに、定住自立圏で盛り込むべき事業等があれば、前向きに考えていきたい。

【委員】働きたい人を地元で雇用することはいいことである。今の若者は県外に出ない傾向もあり、地元企業も雇用に取り組んでいるため、行政からも雇用に向けた働きかけを進めてほしい。

【委員】新卒だけではなく、都会で就職したが故郷に戻りたい人や生活から逃げ出したい人たちにアピールしてはどうか。都会で老後を過ごすよりも故郷の方がよく、先にも話をしたが、障がい

者や高齢者に優しいまちがアピールできれば良いと思う。ホームページ等を活用し中高年の人に情報を与える。「故郷」はキーワードになる。そのために良いまちを形成する。

【委員】人口問題で消滅可能性都市が発表され衝撃を受けたが、人口がプラスになった市町村がある。原因をみると雇用の確保、子育て支援、地価が安いという性質がある。

【委員】「結びつきやネットワークの強化」について、他市の小学校と姉妹校として学校同士の交流はできないか。学校での取組を活用した交流は可能である。「教育」としての取組にもなる。

【事務局】担当課にお伝えする。

【委員】発達障がい児が増えている。親が孤独であり、悩みを抱えている。圏域として親同士の交流があれば情報交換ができる。

※議事終了

【事務局】※懇談会での意見の取扱い及び今後のスケジュール、今後の共生ビジョン懇談会の説明

※その他、会長、副会長のあいさつ

○懇談会終了